
慈 恵

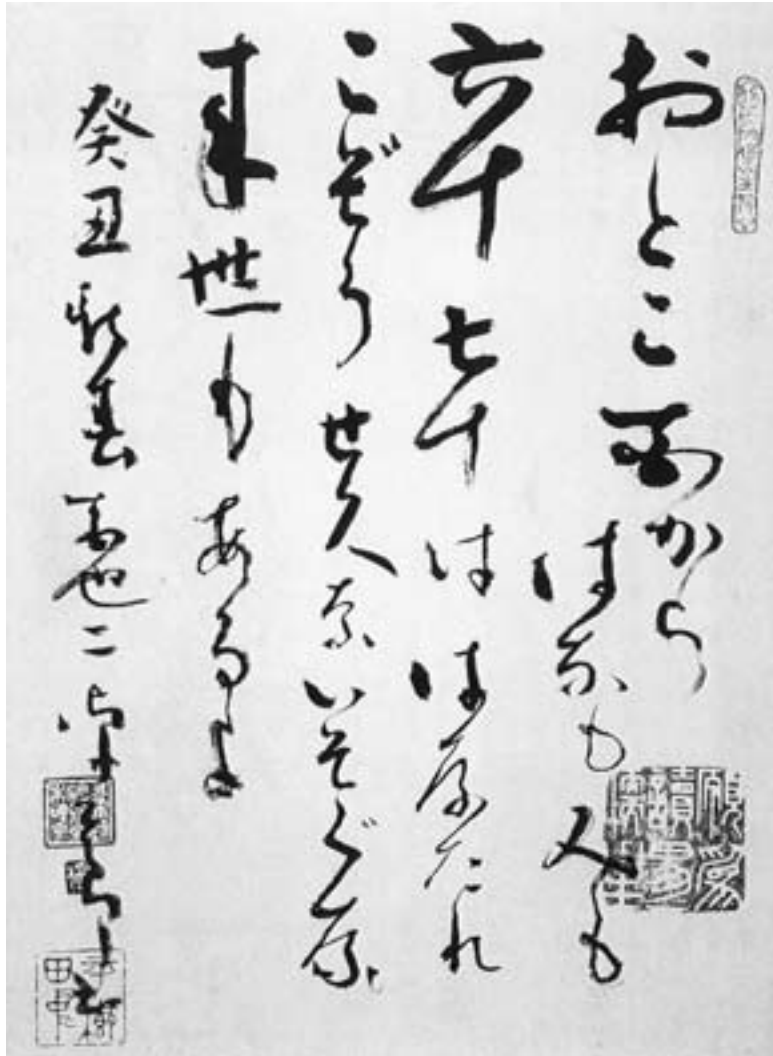


平成27年 夏季号

No.51

宗教法人 慈 恵 院

付属 多磨犬猫霊園



おとこ百から

はなもみも

六十七十は

はなたれこぞう

せくないそぐな

来世もあるよ

癸丑新春

百也二 俣太郎書

「平櫛田中」ひらぐしでんちゅう

木彫家。本名、俣太郎。岡山県生れ。高村光雲らに学び、岡倉天心に影響を受けた。日本美術院同人。東京美術学校教授。文化勲章受章。

(一八七二～一九七九)

無我の妙諦

海舟、またある時に語っていった。

「何ごとをするにも無我の境に入らなければいけないよ。悟道徹底の極はただ無我の二字しかない。いくら禅で練り上げて、なかなかそうはいかないよ。いざとなると、たいていの者が乱れてしまうものだよ。」

きり結ぶ太刀の下こそ地獄なれ

踏込み行けば後は極楽

という歌があるが、これは昔の剣士のいうたことだよ。その調べははなはだ素朴だが、つまり無我の妙諦はここに潜んでいるのだ」

「禅門逸話集成」より

勝海舟 (一八二三〜一八九九)

通称は麟太郎。幕府側代表として江戸城明渡しの任を果たした。
後、参議・海軍卿・枢密顧問官。

夏ごよみ

8 月	7 月	6 月	当山行事
8 / 16 盂蘭盆会 (旧盆)	7 / 12 盂蘭盆会 (新盆)		
8 / 23 処暑 (水原秋桜子)	7 / 7 小暑 小暑なほ降りつぐ梅雨のおくれ哉(二月堂)	6 / 6 芒種 くちなしの花咲きそめし 芒種かな(三木)	二十四節気
8 / 8 立秋 みんなみん蟬立秋吟じいでにけり	7 / 23 大暑 兎も片耳垂るる 大暑かな(芥川龍之介)	6 / 22 夏至 夏至の雨山ほととぎす 聴き暮し(田村木国)	
8 / 6 広島平和記念日	7 / 15 中元	6 / 11 入梅	祝日等
8 / 9 長崎原爆の日	7 / 20 海の日	6 / 21 父の日	
8 / 15 終戦記念日	7 / 20 土用入り		
	7 / 7 七夕の節句 (七夕)	7 / 2 半夏生	



匿名

二〇一四年一月二十日午後八時五分、さくらは七才十ヵ月であつという間に逝つてしまいました。三年近い闘病生活の終わりはあまりにも突然でした。

「脊椎空洞症」二〇一一年十二月二十一日、MRIの画像を前に、進行性の難病、原因不明、有効な治療法はない等の説明を、ただ聞いているだけでした。その年の五才の誕生日（三月十八日）を過ぎた頃から、散歩中に座り込み抱いて帰ることが多くなりしました。かかりつけの先生の紹介で、六月二十三日、日本獣医生命科学大を受診、経過を見ていましたが、四肢共に歩行に力が入らない状態になって

いました。

病名を告げられ無力感一杯の中でも出来る限りの事はしました。徐々に進行し、排泄も横たわったまま、三〇四日便が出ない時の浣腸など辛い事もありました。食事、水などは全て口元へ。トリミング、シャンプー時間短縮の為、顔まわりにシエルティーの面影を残してカットするなど、泣き笑いの介護生活。

そして奇跡と言つてもいいでしょう。二〇一三年、七月末頃から立ち上り、ヨタヨタしながらも五〇六歩、一〇二m歩くようになり、排泄も自力で出来るようになったのです。進行が止つたのではと期待もしました。

カートに乗つての散歩大好き。バイクや車に向つて起き上つて吠えたり、おだやかな顔に「さくらちゃん、いい顔してるね」と、みんなに声を掛けられ可愛いがつてもらいました。かつては走り回つた

公園をカートに乗つての散歩も満足そうでした。

トマト、リング、ヨーグルト、何でも大好き。安定した状態で二〇一四年を迎えました。一月二十日はシャンプーの日。トリマーさんが二人掛りできれいにしてくれていました。数日前から呼吸が少し早いかなという状態でしたから負担になってしまつたのでしょう。

いつもは車で送迎していたのに、その日はカートでお迎えに行き、そのままいつもの公園を散歩。苦しかったのでしようか、家に帰つて専用マツトに下しても眠れない様子。それでもトマト、ヨーグルトはしっかり食べていました。

午後三時過ぎ、かかりつけの先生の診察を受け、お薬と利尿剤を注射して帰宅。翌日も通院の予定でした。

午後四時半頃さくらは夕食。トマト、リングもいつも通りに午後六時過ぎ、夫と私の食事をソファに座つて少し苦

しそうに見ていましたが、食後に夫がいつもと同じように与えたトマトもリングもペロツと食べ、最後となつた夫との散歩から帰つて約四十分後、やつぱり大好きだった夫の隣のソファの positioning で、背中を撫でてもらいながら、その瞬間も知らせないまま静かに旅立ちました。ずっと撫でていた夫が「少し落ち着いて来たな」と言つた時だったのでしょう。可愛いリボンを付けて眠るように。

ありがとう さくら！
頑張つたね。安らかに
ずーっと忘れないよ。

匿名

拝白

猫たちには嬉しい春の季節がまた巡つてまいりました。俳句の季語には、猫の恋として多くの秀句が詠まれておりますが、我家の猫は可哀想に恋をすることも無く、初時雨

の中^と永遠の旅立ちをしたのでした。猫を飼うことにした切っ掛けは、娘の知人が野良猫の生んだ子猫の里親を捜しており、その子猫を、娘のたつての希望で引き受けることにしたのでした。私共夫婦は、当初室内で飼う事には抵抗があり気が進みませんでした、躊躇する間も無く我家に迎えることになってしまったのでした。名前は、お腹のあたりにあつた栗色の毛に因んでマロンと命名しました。それは生後半年経った秋の頃のことでした。とても元気で、いたずらには振り廻わされましたが、寂しがり屋で、甘えん坊でもありました。冬には枕を並べて寝み、また、入浴中には中に入れてほしいとせがみ（もちろん入浴したい訳ではありませんが）、食事中も傍で眺めていたりもしました。とても賢い猫で呼ぶと返事をするのです。一般に嫌がれている鳴き声をしない不思議な

猫でした。私達の膝の上「珠に主人の膝の上」が大好きで膝の上でまどろんでいる様子を見る時、私達にとりましてはほつとひと息つく時間でもありました。家族の一員として不動の存在となり、良きパートナーとして、至福の日々をプレゼントしてくれたのでした。しかし乍ら、十六年八ヶ月を共に過ごした数々の思い出を残したまゝ遂に、私たちの手の届かない遠い彼方へと旅立つ日を迎えることになってしまったのです。

この度の葬送に関しましては「朝日新聞」掲載の犬猫等の葬送の記事で知ることが出来ました。イオンライフ事業部担当者のアドバイザーを戴いたお陰で、家族の思いを籠めて納棺することが出来たと思っております。

ご紹介戴きました慈恵院様での葬送は、丁重、且つ、厳粛なものでありました。家族の一員として見送るには余り有

る事と感激致しました。本堂でお経を上げて戴きました折自燈明というお言葉をお釈迦しましたが、この言葉がお釈迦様入滅最後のお言葉「自灯明法灯明」であると知りました。このたびの葬送によりまして、私達家族の有り様や、心の持ちようまでをお示し下さり、有難く、感謝致しております。

敬具

ハリーに会いたい

西東京市 井上 駿(12)

ぼくは、ハリーの生まれ変わりでだといわれています。ハリーは、シェットランドシープドックという種類の犬で母が飼っていました。

ハリーは、ぼくが生まれる少し前に天国に逝ってしま

しました。ハリーは大の電車好きで、線路沿いの道を電車を追って走っていくこともあったそうです。そしてぼくの方も、小さい頃に電車が大好きだったのを今も覚えています。電車しかつながりはないが母から「ハリーの生まれ変わいだね」と言われるのはとてもうれしいです。ぼくは、実際には、ハリーに会えなかったけれども、ハリーの生まれ変わりとすることに誇りを持って前へ進んでいきたいです。

十二月三十一日、大晦日に家族全員でハリーが眠っている合同供養塔にお参りをしに行きました。ハリーもきっとぼくたちの存在を感じ取ってくれたはずです。

最後にハリーへ。ぼくはハリーを一目見たくてしかたがありません。合同供養塔で仲間の動物たちといっしょに楽しく過ごしてください。いつか天国で会える日を楽しみにしています。